

日本心理学会第88回大会 公募シンポジウム

「宗教指導者（僧侶・牧師・司祭）が宗教心理学を行う意義について考える」

—実証的宗教心理学の挑戦（3）—

話題提供

「心理学の一部門である宗教心理学において
宗教者が果たす役割は何か」

西脇良

（南山大学）

はじめに

この夏の出来事

①「日本カトリック教育学会」参加

- ・ミッションスクールにおける教育を考える学会
- ・初等から高等教育まで／哲学から実践まで
- ・参加者も多様



1年ごとに自らの「宗教教育」の在り方を問い直す機会

はじめに

この夏の出来事

②或る高校生グループからの問い合わせ

- ・「総合的学習(探究)の時間」での取り組み
- ・RQ「日本人は『無宗教だ』と答える人が多いにも関わらず、多数の宗教行事を楽しむのは何故か??」



自らの研究の方向性を問い直す機会

宗教心理学に果たす役割(1)

① アドヴァイス

- ・カトリック教会の現状・情勢・動向へのアクセス
- ・宗教的ケアを受ける側の「建前」と「本音」
- ・宗教的ケアを授ける側の「建前」と「本音」



依頼方法・ワーディングや配慮事項・結果の解釈

宗教心理学に果たす役割(1)

②注視

- ・「超自然／自己」を探究する人間・集団・社会を対象
- ・信じたり実践したりする人間や集団・社会を対象



研究対象・研究者自身が人間を超えていないか注視
宗教に対してポジティブな構えをもつ研究者(ex.私自身)

を注視

宗教心理学に果たす役割(2)

▶ 自身の「宗教」「宗教性」を問う

宗教2世(カトリック幼児洗礼) 日曜日に教会 カトリック幼稚園

誘われるまま兄(双子)と共に神学校へ(中学1年生・神言修道会)

兄と共にカトリック司祭叙階 教会司牧から研究の道へ

心理学界でのクリスチャン研究者との出会い

研究関心は「宗教性(志向:自然観)」「宗教性の発達(志向:宗教教育)」

兄と共に大学教員

大学附属小学校(カトリック小学校)立ち上げに参画し現在に至る

教員としての関わり vs. 司祭としての関わり

宗教心理学に果たす役割(2)

▶ 自身の「宗教」「宗教性」を問う

(宗教者&研究者に必定)

或る種の 変化／相対化／拡張／周縁化 が起りつつある

「つまるところそれは、人間の事柄であり、この世の事柄に
すぎないのか…」

ということに今さらながら気づく。中心付近？にいると気づかない…

宗教心理学に果たす役割(2)

➡ 自身の「宗教」「宗教性」を問う

(宗教者&研究者に必定)

「つまるところそれは、人間の事柄であり、この世の事柄に
すぎないのか…」

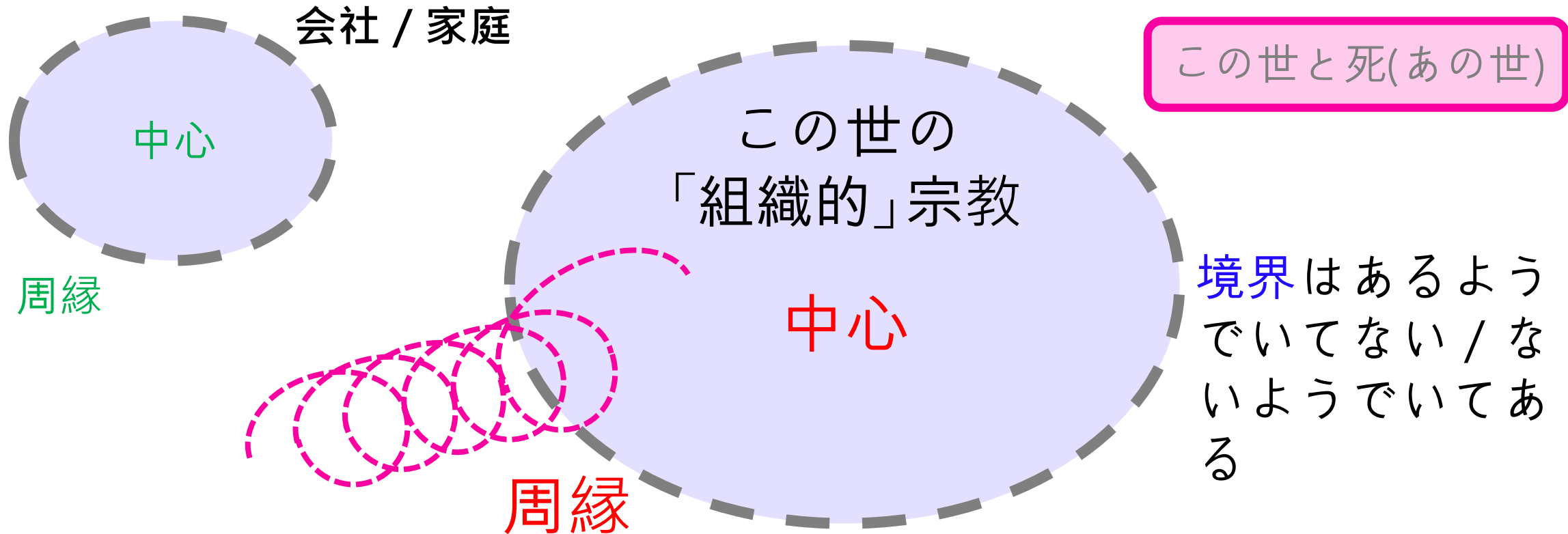
宗教者としては、「それは違うだろう…」(超自然の介入)

人間のこと／この世のこととして宗教をやってきたのか？

研究者としては、「それは当然だろう…」(超自然を保留)

宗教心理学に果たす役割(2)

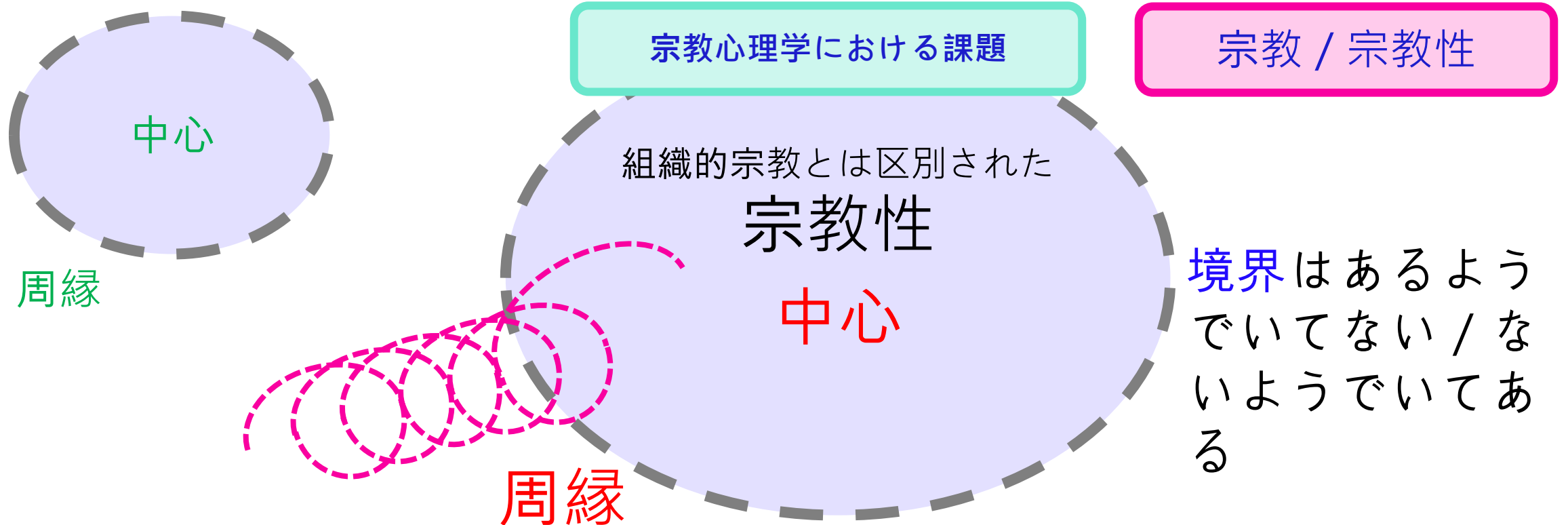
➡ 自身の「宗教」「宗教性」を問う ||➡ 死への準備



宗教心理学に果たす役割(2)



宗教者であればこそ「宗教」「宗教性」概念を問う



宗教心理学に果たす役割(2)



宗教者であればこそ「宗教」「宗教性」概念を問う

内包・外延の外を何と呼ぶのか？

「無宗教」？

「スピリチュアリティ」？

宗教心理学における課題

宗教 / 宗教性

組織的宗教とは区別された

宗教性

中心

周縁

境界はあるよう
でいてない / な
いようでいてあ
る

宗教心理学に果たす役割(2)



宗教者であればこそ「宗教」「宗教性」概念を問う

- ①「無宗教」にも「中心と周縁」がある？
- ②「無宗教」言説に続く語りおよび行動に注目

「とくに信じているわけではないけれど...」
のあとに続くことばにならないことば
「自分はそういうあれではないけれど...」
といつつなされるたしかな実践

周縁を彷徨する姿勢が仮説（無宗教でも
スピリチュアリティでもない概念）を生むか

